

特別養護老人ホーム愛の園
口腔内喀痰吸引実施マニュアル

口腔内吸引の対象

要介護高齢者は、咳をする力や飲み込む力の低下、病気などが原因となり、痰・唾液・食物残渣を自分で口の外に出したり飲み込んだりすること(嚥下)が難しくなることがある。まず口腔ケアを行い、とりきれない場合に口腔内吸引の対象となる。

痰、唾液、食物残渣が口腔内や気道に溜まると呼吸状態が悪くなり、肺炎や窒息などを引き起こし命にかかわることがある。(65歳以上の高齢者の死因第1位は窒息)

口腔内吸引の目的

目で確認できる範囲の口の中の痰や唾液などを取り除く(咽頭まで)。

(医療行為であり医師・看護職員・介護職員の連携・協働が必要とされる)

手順

過程	項目	行為内容	留意点
準備	手洗い	流水+せっけんにより手洗いをす。速乾性擦式消毒剤でもよい。 必要によりマスク・ガウンを着用	・菌を持ち込まない
	体調確認	本人に確認 or 観察	
手順1	吸引依頼 or 意思・状態確認	本人から依頼を受け、あるいは本人の意思・状態を確認する。 吸引の環境、姿勢、口の周囲、口腔内を観察する。	・必要性があるか ・効果的な体位か ・唾液の貯留、出血、腫れ、乾燥をチェックする
手順2	手洗い・手袋	両手を洗い、利き手に手袋をする。	・本人の体に触れた後は手洗い
手順3	吸引カテーテル	吸引カテーテルを不潔にならないよう取り出す。	・衛生的取扱い ・先端に触らず、周囲にぶつけていないか
手順4	吸引器の起動	手袋をしていない方の手で吸引器のスイッチを入れる。薬液浸漬方の場合、水を吸って吸引カテーテル内腔を洗い流すとともに、吸引カテーテルの周囲を洗う。 決められた吸引圧になっているか確認。	・衛生的取扱い ・看護師が定めた適切な吸引圧であるか
手順5	カテーテルの水切り	吸引カテーテルの先端の水をよく切る。	
手順6	声かけ	「〇〇さん、今から口の中の吸引をしますよ」と声をかける。	・本人に合図し心の準備をしてもらえたか ・必要に応じて看護師の協力を得て行えているか
手順7	吸引開始	吸引カテーテルを口腔内に入れ、両頬の内側、舌の上下周囲、前歯と唇の間などを吸引する。	・カテーテルの先端から 5~7 cm くらいのところを、ペンを持つように握る

			<ul style="list-style-type: none"> ・静かに挿入し口腔内の分泌物を吸引できたか。奥に入りすぎていないか ・十分開口できない場合は、片手で唇を開き、あるいはバイトブロックを使用する場合もある ・無理に口を開けようとするとう反射的に強く口を閉じ、カテーテルを噛む場合もあるので、リラックスさせて筋肉の緊張が緩むのを待つ配慮も必要 ・咽頭後壁を強く刺激すると嘔吐反射が誘発されるので、食後まもなくは注意する
手順 8	使用済みカテーテル	使用済みカテーテルの外側を先端に向かってティッシュで拭き取った後、洗浄水(水道水)を吸って内側を洗い流す。	<ul style="list-style-type: none"> ・外側に分泌部が付いたカテーテルをそのまま洗浄水に入れて水を汚染していないか ・洗浄水、消毒液を吸い過ぎていないか ・カテーテルに分泌物が残っていないか
手順 9	吸引終了	吸引器のスイッチを切る。	<ul style="list-style-type: none"> ・不快な機械音を早く消す
手順 10	手袋	手袋をはずし、手洗いをする。	
手順 11	確認・観察	本人に吸引が終わったことを告げ、確認できる場合は痰がとれたかを確認する。吸引した物の量、性状について確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の意思を確認しているか。痰が切れていない場合はもう一回繰り返すかを聞いているか。 ・苦しい時間を頑張ったことを認める声かけができたか ・本人の状態を観察したか ・吸引した痰の量・色・性状を見て、異常がないか確認したか。(異常があった場合、看護師、医師に報告したか。)
手順 12	廃液の廃棄	吸引瓶の廃液量が 70～80%になる前に廃液を捨てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・手早く片付けているか ・吸引瓶の汚物は適宜捨てる
手順 13	洗浄水	洗浄水は毎回取り替える。	<ul style="list-style-type: none"> ・洗浄水は継ぎ足さず、瓶ごと取り替える
手順 14	記録	喀痰吸引等業務実施状況報告書に記録する。ヒヤリハットがあれば報告を提出する。	<ul style="list-style-type: none"> ・記録し、ヒヤリハットがあれば提出したか